

【第3号様式】おきなわSDGs認証制度 主要評価項目（アクションプランに基づく活動計画書）

1. 団体情報

企業・団体名	株式会社エースガイド
--------	------------

2. 申請内容

(1) 2030年のあるべき姿（ビジョン） ※記載必須

2030年のあるべき姿（ビジョン）	
* SDGsの目標である2030年までに、「（2）今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社/団体が目指す未来を記載ください。 （貴社/団体が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社/団体が考える課題、それに対して貴社/団体ができる取組の方向性など）	2030年のあるべき姿の実現に向けて取り組むゴール * SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。
弊社が目指す社会は、沖縄ということにこだわり、沖縄から全国・世界へ、全国・世界から沖縄へと技術や情報、文化、製品、サービス交流に努めて、「技術・産業を通して沖縄県民並びに国力に貢献する」ことを目的としています。現在は途上期であり、まだ目標を完全には達成できていませんが、（2）今後2年間で特に注力する活動・取組に掲げる、自立支援や贈答品販売の普及展開に加え、廃棄予定だった沖縄贈答品のリユースを推進することで、資源の有効活用と地域経済の活性化を図ります。また、沖縄贈答品（まかちょーけ）運営を通じて沖縄贈答品の魅力を広めるとともに、地域の特産品の価値向上に努めています。さらに、自立支援（生活支援）活動を通じて、地域住民の生活基盤の安定を支援し、募金活動や地域清掃活動を通じて地域社会への貢献をさらに深めています。これらの取組により、「技術・産業を通して沖縄県民並びに国力に貢献する」という目標の実現を目指してまいります。	<div><div>1 人々</div><div>4 知識</div><div>8 経済</div><div>11 都市</div><div>12 消費</div><div>17 平和</div></div>

(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（経済・社会・環境）は記載必須

No.	今後特に注力する活動・取組			おきなわ SDGsアクションプランとの関係性			関連するステークホルダー	補足事項・留意点等	貴団体におけるKPI（進捗管理指標）		
	概要	分類 * 任意の箇所は、フルタウ ンから分類を選択ください。	優先課題	SDGs推進の目標		関連するSDGs ターゲット	* 連携・協力するステークホルダー がいる場合に記入する。	* 補足事項等があれば記入する。	管理する指標	現状値 (2025年)	目標値 (2027年)
1	通販サイト「まかちょーけ」を通じた沖縄贈答品の販売と沖縄県の「盛り入れ文化」の発信	経済	優先課題⑩	⑩→2	地域の伝統行事や文化に若い世代が参加する機会が増え、次世代への継承を実現する。	12. b 17. 16 17. 17	沖縄贈答品の製造先		沖縄贈答品の年間販売数	83件	150件
2	障がい等の理由で就職が困難な方を対象とした自立支援（生活支援）サービスの提供	社会	優先課題①	①→2	障がいをはじめとした課題を持つ全ての人々にとって、協力的で包摂的なサービス・アクセスを提供する社会を実現する。	8. 5 8. 6	行政・公的機関、障害福祉・就労支援専門機関、保健・医療・福祉機関、大学・専門学校・高等学校・通信制高校・特別支援学校等		年間累計での支援者数	17名	70名
3	廃棄予定だった沖縄贈答品（菓等）をリユースし、B級品やオブジェとして販売	環境	優先課題⑦	⑦→2	持続可能な消費・開発、自然と調和したライフスタイルの形成、廃棄物削減などによって資源循環型の社会を実現する。	12. 5 12. 6 8. 3 11. 4 17. 17	内装業者（県内・県外）		年間リユース販売件数	15件	20件
上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「経済・社会・環境・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由選択ください）											
4	清掃活動をはじめとする、地域活動やボランティア活動へ自立訓練生も含めた積極的な参加	地域課題への貢献	任意	優先課題⑩	⑩→1	県民一人ひとりが地域活動に積極的に参画するローカルパートナーシップが充実した社会を実現する。	10. 2 16. 6 16. 7 16. 10 17. 16 17. 17	那覇市役所、自治体、自立訓練スタッフ・利用者	ボランティア活動参加人数 (各年度あたりの参加人数) 参加回数	参加人数：5名 参加回数：1回	参加人数：20名 参加回数：1回以上
5	こども食堂や若い羽根共同募金、沖縄こども未来プロジェクト等への募金活動	地域課題への貢献	任意	優先課題②	②→6	生活困窮世帯の子どもや世帯を支援する官民の枠組みが充実し、子ども達が生き生きと活動できる環境の形成を実現する。	2. 2	日本赤十字社 沖縄こども未来プロジェクト	寄附回数	年2回	年3回以上

(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

各活動・取組に関する詳細	
* 各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来の展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。	
取組1	取組の詳細
	沖縄の陶器、ガラス、布を県内及び県外に広げている。これにより沖縄県の産業を発展に寄与するとともに、沖縄県の文化を幅広く知っていただくことに貢献する。
	取組において、現時点で実施／決定していること
	インターネット及び直店舗にて販売している。 沖縄県内の事業者並びに声優とともに作成した告知アニメーション動画をHPやSNSで発信している。
	取組において、今後予定していること
取組2	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法
	2025年までに年間200件の贈答品販売を行う。 価格は商品によって幅があり、ガラスは3,000-4,000円のものもあれば、量は50,000円ほどになるものもある。売り上げを上げるというよりは沖縄県の文化を広げていくことを趣旨としているのでこのKPIとしている。
	取組を推進する体制
	HPの更新については、グループ会社と連携して行う。
	取組の詳細
取組3	若年層のニートが全国的に増加している現在、障がい等の理由で就職が困難だった人への自立支援を行う。 また、リワーク（復職）を目指す方々の支援に力を入れる。 各同業者、官公庁、計画相談支援事業所、特別支援学校、共同生活援助、訪問看護等へ月間50社に告知し、周知を深めている。 福祉サービス業をしているところ（就労継続A型・B型、放課後等デイサービス、就労移行サービス）や同様に自立支援を行っている団体を想定。自立訓練は複合型のケースが多い（自立支援と就労移行がMIXしているなど）が、自団体は自立支援のみのサービスなので、他団体とつなげて就労に結び付ける必要がある。利用者を引き取って訓練後にお返しすることもある。 地域のクリニックや市役所、学校（大学・高校・特別支援学校）、引きこもり家族会、地活（地域連携活動関係団体）、計画相談員などがメインの連携先である。 実績17名のうち3名ほどは就労経験者。
	取組において、現時点で実施／決定していること
	那覇市市内にて、新たに4人の従業員を採用し、事業所を開き、福祉サービス業を行っている場所（就労継続A型・B型、放課後等デイサービス、就労移行サービス、計画相談支援事業所）や同様に自立支援を行っている団体への周知、SNSの運用（主にInstagram）、HP対策を実施している。2025年10月は90件超、2025年11月は80件超の関係機関への周知ができています。 障害福祉サービスの関係機関へ出張オーストラを呼び、メディアに取り上げてもらい、認知度を高める活動を行っていく、2025年10月ごろ開催の予定。 Instagramの運用については、最低3日に1回はストーリーをアップ、投稿は月2〜3回行い、フォローや閲覧者を増やして認知度を高めていく。 投稿内容は利用の要件や概要を発信し、加えて、利用者の声、ご家族の声、実習風景、イベント実施時の様子をアップしている。 2025年9月に自社の事業所を利用した人のうち2名が正規就職した。（医療事務、訪問看護）こうした実績や、実際の支援内容（生活支援、就職支援、復学支援）、利用後の将来見込みについて周知を行っている。
	取組において、今後予定していること
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法
	1店舗で30〜40名の自立訓練の契約を締結し、2028年までに3店舗増やし、年間累計100名の契約者数を目標とする。
取組4	取組を推進する体制
	社長と自立訓練の4名が目標を推進していく。うち2名が女性で1名が責任者を務める。

取組 3	取組の詳細	県内の産業を広げ、沖縄県の文化を承継するため不適合品のリユース先を見つけ、廃元から廃棄物を買取り、お客様へ販売する。 廃棄物の削減、廃元の経営維持、沖縄の文化の広がり に貢献する。
	取組において、 現時点で実施／決定していること	2025年10月よりHPにリユース商品を並べる。 SNSについては、アカウントを作成し、通常商品やリユース商品の紹介など、認知活動を行う。
	取組において、 今後予定していること	利用用途の種類を多く見つけ、お客様の要望に応えながら、廃棄することなく活用できるようにしていく。 県内の建築業や内装業の企業への周知を行う。 HPやSNSにて導入事例を掲載することで幅広く周知を行っていく。 いずれは、自立訓練の対象者に対して職業体験の場としての提供や今後の就職先として模索していく。
	KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法	現在契約している県外の内装業者1社について、今後も継続的な注文が見込まれる。
	取組を推進する体制	社長にて目標を推進していく。
取組 4	取組の詳細	那覇市の事業所付近の公園や町内の清掃活動を行う。
	取組において、 現時点で実施／決定していること	自治体や地域と協力して行う。 実施する場合は、那覇市役所に事前に連絡をとり連携を行う。
	取組において、 今後予定していること	現在、自立訓練を行っている利用者とスタッフと一緒にできるよう2025年11月～12月頃にて計画している。 放課後等サービスが広くあるので声掛けを行ったり、自治会にも持ち掛けたいと思っている。 自治会をキーにそこに参加している地域包括団体などがある場合は連携できるとよいと考えている。
	KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法	スタッフ並びに利用者と一緒に行う。 2028年では合計15名の利用者と5名のスタッフを集って参加が見込まれる。
	取組を推進する体制	社長、自立訓練スタッフにて目標を推進していく。
取組 5	取組の詳細	事業収益の一部を那覇市の「子ども食堂」や「赤い羽根共同募金」、「沖縄こども未来プロジェクト」などにて寄附を行う。
	取組において、 現時点で実施／決定していること	少しでも多くの方に貧困の現実を知っていただき、少しでも多くの子どもの支援が広がるよう、那覇市の「子ども食堂」や「赤い羽根共同募金」、「沖縄こども未来プロジェクト」などへの寄附を毎年継続して行う。 また、寄附活動の透明性を確保するため、寄附先について自社HP等で社内外に報告する仕組みを整備する。
	取組において、 今後予定していること	寄附活動を毎年の実施事項として定着させるとともに、寄附先を拡大し、より多くの地域や団体を支援する計画とする。 また、寄附活動に加え、地域の子どもたち（放課後等サービス）を対象としたイベントや教育支援プログラムの実施も検討する。
	KPIにする指標の設定理由、 目標値の妥当性、指標の計測方法	寄附活動を毎年の取組として定着させるため、寄附団体の数をKPIとして設定する。
	取組を推進する体制	寄附活動の推進は、社長を中心となって全社的な取組として実施する。 今後は、社員全員が寄附活動の意義を理解し、積極的に参加できるよう、社内での啓発活動も行う。